城東地区5区の 産業構造等の概要 について

(第4版 2022年4月)

足立区 一 葛飾区 墨田区 江戸川区 江東区

東京都中小企業診断士協会城東支部 地域支援部

前章	₫ 城東地区の概要	4
第 1	章 足立区	5
1.	. 足立区の概要	5
	(1)足立区の歴史	5
	(2)足立区の地理	5
	(3)足立区の名所・見どころ	6
	(4) その他	6
2.	. 足立区の産業の特徴と状況	7
	(1)足立区の特徴と状況	7
	(2)足立区の産業と課題	8
3	. 足立区の施策(補助金・条例)	10
	(1) トータルマッチング事業	10
	(2)創業支援事業計画	10
	(3)中小企業経営者のための相談窓口	10
	(4) オンライン中小企業相談	10
	(5)IT・IoT 相談	10
	(6)経営力向上計画作成支援	10
	(7)女性起業、経営相談窓口	11
	(8)助成金、補助金	11
第 2	2章 江戸川区	13
1	. 江戸川区の概要	13
	(1)江戸川区の歴史	13
	(2)江戸川区の地理	13
	(3)江戸川区の名所	13
	(4) その他	14
2	. 江戸川区の産業の特徴と状況	15
	(1)江戸川区の特徴と状況	15
	(2)江戸川区の産業と課題	16
3	. 江戸川区の施策(補助金・条例)	18
	(1)産業ときめきフェア in EDOGAWA	18
	(2)えどがわ起業家ゼミナール	18
	(3)えどがわ起業ビジネスプランコンテスト	18
	(4)創業支援施設	18
	(5)えどがわ産業ナビ	19

	(6)主な助成金事業	19
2	4. 城東支部とのつながり	19
第	3章 葛飾区	21
1	1 . 葛飾区の概要	21
	(1)葛飾区の歴史	21
	(2)葛飾区の地理	21
	(3)葛飾区の名所	21
	(4)葛飾区の農業	22
2	2.葛飾区の産業の特徴と状況	22
	(1)葛飾区の特徴と状況	22
	(2)葛飾区の産業と課題	22
3	3.区内の成功事例等	24
	(1)葛飾区地域ブランド認定	24
	(2)柴又地区の重要文化的景観認定	24
4	4.葛飾区の施策(補助金・条例)	24
	(1)葛飾区基本計画(令和 3 年~令和 12 年)	24
	(2)産業活性化プラン	24
5	5. 城東支部とのつながり	25
6	6.かつしか電子まっぷ	25
第	[4章 江東区	26
1	1 . 江東区の概要	27
	(1)江東区の歴史	27
	(2)江東区の地理	27
	(3)江東区の名所	27
2	2.江東区の産業の特徴と状況	28
	(1)江東区の特徴と状況	28
	(2)江東区の産業と課題	28
3	3.区内の成功事例等	29
	(1)ものづくり団地(江東ブランド)の認定	29
	(2)江東みつばちプロジェクト®(豊洲商友会協同組合)	29
4	4.江東区の施策(条例・補助金)	30
	(1)江東区の基本構想(平成 21 年 3 月策定)	30
	(2)新しい江東区長期計画(令和2年度~11年度)	30
5	5. 城東支部とのつながり	31
第	5 章 墨田区	33
	1 黒田区の概要	33

(1)墨田区の歴史	33
(2) 墨田区の地理	33
(3)墨田区の名所	33
. 墨田区の産業の特徴と状況	33
(1) 墨田区の商業の状況	34
(2) 墨田区の工業の状況	34
(3)墨田区の産業が抱える課題と成功事例	35
. 墨田区の施策(補助金・条例)	36
(1)墨田区工業振興マスタープラン(平成 21年)	36
(2)地域力を育む商業空間づくり振興プラン(平成 29 年)	36
(3)墨田区産業振興マスタープラン(平成 25年)	37
(4)(仮称)墨田区産業観光マスタープラン(令和4年3月策定予定)	37
. 城東支部とのつながり	37
集後記>	39
	(1) 墨田区の商業の状況

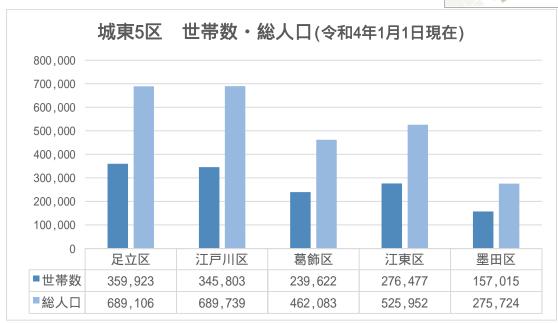
前章 城東地区の概要

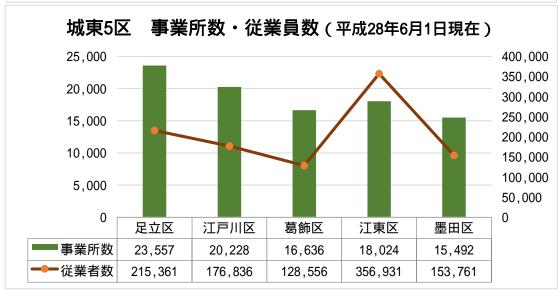
城東地区はかつての江戸城、現在の皇居から東側の地区を指す。東は千葉県、北は埼玉県と接しているこのエリアは、荒川、江戸川、隅田川と複数の一級河川が流れ、近代都市を有しながらも、自然の景観が残る一帯となっている。

足立区

東京都中小企業診断士協会 城東支部は、足立区、江戸川区、葛飾区、江東区、墨田区の5つの区を担当する支部である。

前章では、各区の世帯数・総人口および事業所数・従業員数の比較により城東地区の5区の規模感を示す。





第1章 足立区

1. 足立区の概要

(1)足立区の歴史

足立区は、その昔海辺に面した湿地帯の湿原や荒地だったといわれており、「あだち」という名の由来は、足立区の周辺に葦が多く生えていて、「葦立(あしだち)」といわれたのが「足立」になったという説がある。江戸時代の武蔵国足立郡が明治 11 年(1878年)に南北に分かれ、東京府に属する南足立郡が今の足立区の前身となっている。「足立区」という区名は昭和7年(1932年)かって

世帯数		359,923	
人	男性	344,922	
П	女性	344,184	
	総数	689,106	
令和4年1月1日現在			

總持寺(そうじじ)通称「西新井大師」は空海(弘法大師)に由来する歴史ある寺院で、「関東三大師」の一つに数えられ、毎年初詣の参拝客で賑わう。







西新井大師本堂

境内に咲く梅

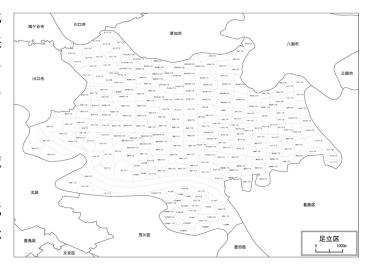
千住大橋

ターミナル駅として栄えている北千住駅周辺は、「千住宿」として江戸時代から物流や商業の拠点を担ってきた。文禄3年(1594年)に当時隅田川に架けられた唯一の橋である千住大橋が完成し、東北へと延びる奥州街道が足立区を通り、その後日光街道ともつながった。

(2)足立区の地理

東京都区部(東京23区)の北東部に位置し、隅田川と荒川に挟まれた地区と、面積の大半を占める荒川以北の地区に分かれている。東は葛飾区、西は北区、荒川区、北は埼玉県川口市、草加市、八潮市、南は葛飾区、墨田区、荒川区に接している。

東西 11.10 キロメートル、南北 8.79 キロメートルと広がり、総 面積は 53.25 平方キロメートル。



区部では大田区、世田谷区に次いで第3位の広さである。

(3)足立区の名所・見どころ

足立区は区立公園の面積 が23区で最大という水や緑 に溢れた自然環境を持つ。

北千住など人気のエリア のほか、厄除けで有名な西 新井大師や舎人公園、花畑 記念庭園等の見どころがあ る。

区内外へ伝えたい魅力的な光景を発信すべく、足立 区観光交流協会が「足立区 街フォトコンテスト」を主 催しており、地域活性化に 向けて情報発信を行ってい る。

主な観光名所	主な年中行事
足立区立郷土博物館	各種イベント有
西新井大師	縁日:毎月1、8、11、21、28日
元渕江公園・足立区生物園	各種イベント有
花畑記念庭園・桜花亭	ヨガ教室・庭園ガイドツアー等
舎人公園	千本桜祭りと花めぐりバス(4月)
都市農業公園	春の花まつり (4月)
しょうぶ沼公園	しょうぶまつり&スタンプラリー
	(6月)
荒川河川敷	足立の花火 (7月)
	あだち区民まつり(10 月)
ベルモント公園	あだち国際まつり(11 月)
デジタル・イルミネーショ	竹ノ塚駅東口(12月~2月)
ン光の祭典	

http://adachikanko.net/machiphoto-contest

(4) その他

ア.刑法犯罪の認知件数

足立区では警察や区民と連携して実施している「ビューティフル・ウインドウズ運動」を中心に、より安心なまちづくりを目指している。令和3年の刑法犯認知件数は3,212件。3年連続で戦後最小を更新した。令和2年度「足立区政に関する世論調査」によると、居住地域の治安が良いと感じている区民は平成23年以降、最も高い61.6%まで増加している。

イ.大学誘致

現在足立区には、6つの大学がキャンパスを開設している。各大学は地域に開かれた大学を目指し、区や地域との連携を進めている。「夢をかなえよう。with あだちの6大学」と銘打った連携事業を開始し、活力あるまちづくりや区のイメージアップを図っている。

放送大学(東京足立学習センター)平成5年開設

東京藝術大学 平成 18 年開設 東京未来大学 平成 19 年開設 帝京科学大学 平成 22 年開設 東京電機大学 平成 24 年開設 文教大学 令和 3 年開設



東京藝術大学千住キャンパス

ウ.進化するまち

令和4年1月1日に東京女子医科大学東医療センターが開院。1月5日から外来診療を開始した。大学病院の誘致、開設は区民の悲願であった。

竹の塚駅付近の完全高架化により、令和4年3月22日初電から全面的に高架に切り替わる。足立区が平成23年から行っている事業が完成し「安全なまち」という形ある未来につながった。

2. 足立区の産業の特徴と状況

(1)足立区の特徴と状況

ア.マクロ状況

足立区が発行している「あだちの産業構造平成 28 年経済センサス 活動調査 結果報告」によると、足立区の事業所数は 2 万 3,557 事業所と区部で 8 位。従業員数は 21 万 5,361 人で区部 12 位と、事業所に比べて順位が低い。

経営組織別に足立区の事業所をみると、「個人経営」は 8,690 事業所(36.9%) 「法人」は 1万4,850 事業所(63.0%)となっている。経営組織別従業者数をみると、「個人経営」は 2万2,960人、「法人」は 19万2,306人となっている。

事業所数の構成比を区部全体と比べると、「個人」が、区部で 26.4%。また、「法人」は、 区部で 73.3%となっていることから足立区は比較的に小規模な事業所が多いことがわかる。 区内事業所の年間売上(収入)金額は3兆7,038億円で区部の14位。平成26年から約 6,000億円上昇。付加価値額は8,487億円で区部15位。

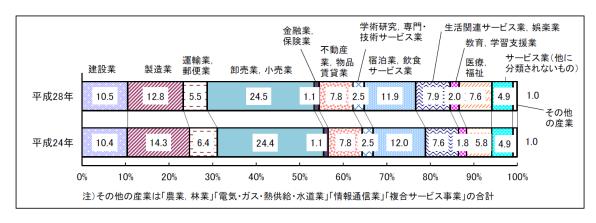
会社企業数(株式会社、合名会社、合資会社、合同会社、相互会社、単独事業所)は9,025 企業で区部9位。平成26年から約1,000社減少している。

足立区には中央卸売市場が2箇所存在し、一つが都内で唯一の水産物専門の足立市場 (足立区千住橋戸町)。もう一つが青果・花き市場である北足立市場(足立区入谷)である。農地面積は48.2ha(令和2年4月現在)と区部3位の広さであり、「東京都農作物生産状況調査」(平成30年産)によると枝豆の収穫量は区部2位、小松菜は3位である。また、小松菜の地域ブランドである「あだち菜」とそれを用いた「あだち菜うどん」や地 場野菜の「千住ネギ」など農作物のブランディングにも力を入れている。

イ.産業別状況

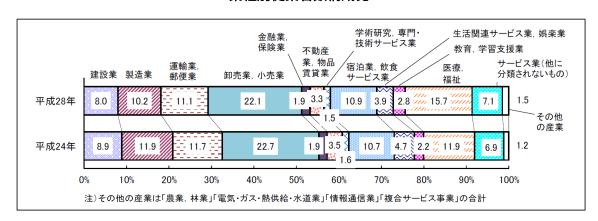
事業所数の構成比は「卸売業、小売業」が24.5%と最も高く、次いで「製造業」12.8%、「宿泊業、飲食サービス業」11.9%、「建設業」10.5%と続いており、この4産業で構成比の約6割を占める。平成24年活動調査と比較すると、「医療、福祉」が300事業所(増加率20.1%)増加している。最も減少したのは「製造業」で655事業所(同 17.8%)次いで「卸売業、小売業」501事業所(同 8.0%)、「運輸業、郵便業」348事業所(同 21.2%)の減少となっている。

業種別事業所数構成比



従業者数の構成比をみると、「卸売業、小売業」が22.1%と最も高く、次いで「医療、福祉」が15.7%、「運輸業、郵便業」が11.1%、「宿泊業、飲食サービス業」が10.9%、「製造業」が10.2%となっており、この5業種で約7割を占める。

業種別従業者数構成比



(2)足立区の産業と課題

ア.足立区の工業の特徴

足立区の工業の状況

足立区は金属製品、なめし革・同製品・毛皮、印刷・同関連産業などを中心産業としてきたが、都内の他の代表的な工場集積地区と同様、急減傾向にある。特に従業員 10 人未満の小規模の減少が顕著である。多くの小規模事業者は、原材料価格高騰等の外部環境と同時に、経営者の高齢化と後継者不足などの内部環境の影響を大きく受け、今後も厳しい状況であることが想定される。

足立区の工業の課題

厳しい環境の中で経営力の維持・強化を図っていくために、自社にない技術を保有する企業との連携を通じた技術レベルの強化や販路開拓等の対応力強化、経済環境や顧客ニーズ等の変化を注視しつつ、稼ぐ力の強い業種の雇用力の向上や収益力の維持・強化を進めていく必要がある。

イ.足立区の商業の特徴

足立区の商業の状況

平成 26 年 7 月 1 日現在で実施した商業統計調査の結果は、卸売・小売業の商店数は 4,649 事業所、従業者数は 3 万 5,287 人、年間商品販売額は 1 兆 2,841 億 95 百万円となっている。 卸売業は事業所数、従業者数、年間商品販売額とも、上位は「農畜産物・水産物卸売業」、 「食料・飲料卸売業」「建築材料卸売業」「他に分類されない卸売業」が占めている。また、 従業者数 10 人未満の事業所が卸売業全体の約 8 割を占めている。

小売業は事業所数と従業者数は「その他の飲食料品小売業」が最も多く、年間商品販売額と売場面積は「百貨店、総合スーパー」が最も多い。 従業者数 10 人未満の事業所で小売業全体の 8 割以上を占めている。

多くの区民は、「身近で安いから最寄品は近所のスーパー」「品揃え、欲しいものがあるから買回り品は都心部」「クリーニング、理美容は行きつけの近所の店を利用」といった消費行動が見られる。また地域商店街の主要顧客は、地元の女性高齢者となっている。

足立区の商業の課題

区内の多くの小売業は「売上げの伸び悩み」を経営課題に挙げており、平成 26 年の年間商品販売額は平成 19 年と比較して 15.8%と減少した。一方、電子商取引を利用している区民は平成 28 年時点で約 8 割と高く、足立区消費者センターが受ける相談の中で電子商取引に関する相談割合も増加傾向にある。消費者のニーズに合った実店舗の魅力向上や、商取引に伴う安全・安心のための支援が必要になっている。

ウ.足立区の創業の特徴

足立区の創業の状況

近年、足立区では「創業するなら足立区で!」をキャッチフレーズに都内一起業・創業しやすいまちとして起業・創業の促進をおこなっている。区内新設法人数は平成 24 年の 618 社から年々増加し、平成 28 年は 906 社、都内で第 13 位。一方、増加率は前年比 10.3%と、同第 2 位である。背景には創業や経営革新のための相談事業や各種創業支援セミナー、補助金等支援の強化がある。

足立区の創業の課題

今後も、地域経済の活力源となる事業者を増やしていくために、創業の支援を強化していくことが重要である。また、創業間もない事業者や創業後一定期間経過した事業者が区内で継続して事業を営めるように、各種対策を実施する必要がある。

エ.未来を拓く足立ブランドの認定

足立区では平成19年度から足立ブランドを展開している。区内産業の優れた製品・技術

を認定し、認定製品・技術には「認定ロゴマーク」が付与され、販路拡大のための PR 支援などを行っている。

足立ブランド認定企業が集結するチーム「FC ADACHI」は「足立区を、東京を、日本のものづくりをもっと元気に!」という目標に向かって精力的な活動を展開しており、令和元年末時点で63社を認定している。

https://www.city.adachi.tokyo.jp/s-shinko/shigoto/shogyo/brand-toha.html

3. 足立区の施策(補助金・条例)

(1)トータルマッチング事業

マッチングクリエイター(企業訪問相談員)が足立区の中小企業の皆様を直接訪問して、数多くある中小企業支援制度を企業の皆様のニーズに合わせて紹介する事業である。(経営相談、情報提供、受発注あっ旋相談など)

https://www.city.adachi.tokyo.jp/chusho/shigoto/nyusatsu/jigyosha-matching.html

(2) 創業支援事業計画

区または創業支援事業者が、創業希望者を対象に、経営、財務、人材育成、販路開拓等の知識習得を目的として継続的に行う支援。特定創業支援等事業の支援を受け、区が証明書を発行した方は、一般創業者よりも手厚い支援を受けることができる。

https://www.city.adachi.tokyo.jp/chusho/30-sougyoshienjigyokeikaku.html

(3)中小企業経営者のための相談窓口

経営上のさまざまな課題、問題を解決したい方、これから創業したい方などのお役に立つため、専門的知識と経験を持つ中小企業診断士が無料相談を行う。

https://www.city.adachi.tokyo.jp/chusho/shigoto/chushokigyo/yushi-sodan-02.html

(4) オンライン中小企業相談

足立区で事業を始めたい、または営んでいる中小企業者を対象に Web 会議サービスを利用したオンライン相談を実施している。

https://www.city.adachi.tokyo.jp/chusho/chusho-online.html

(5) IT・IoT 相談

IT・IoT に関わる無料相談を、予約制で行う。

https://www.city.adachi.tokyo.jp/chusho/shigoto/chushokigyo/itiotsoudann.html

(6) 経営力向上計画作成支援

中小企業診断士が区役所内の相談ブースもしくは事業所へ直接出向き、経営力向上計画

の、作成支援を無料で行う。

https://www.city.adachi.tokyo.jp/chusho/keieiryoku.html

(7)女性起業、経営相談窓口

女性中小企業診断士がこれから起業を目指す女性や、女性経営者の経営に関する相談を 予約制で行う。

https://www.city.adachi.tokyo.jp/chusho/shigoto/chushokigyo/yushi-sodanwoman.html

(8)助成金、補助金

区内中小企業の支援を行うため各種助成金・補助金メニューを用意している。

https://www.city.adachi.tokyo.jp/sangyo/hojojosei.html

ア. 経営革新

新製品・新事業開発補助金:試作品開発コース、実用製品化・新事業提案コース 技術支援補助金:大学や産技研からの技術支援を受けた際の費用の一部助成 小規模事業者経営改善補助金:機械設備等購入費補助、店舗改修費補助等 専門家派遣助成金:中小企業が抱える課題解決のための専門家派遣 ISO 認証取得助成金: ISO 認証取得に要した経費を助成

知的財産権認証取得助成金:知的財産権の認証登録取得に要した経費を助成 見本市等出展助成金:製造業企業が国内外の見本市に出展する費用を助成 足立区ものづくり企業地域共生推進助成金:ものづくり企業の地域共生を支援 IT・IoT 導入補助金:IT・IoT の導入、開発費用を助成

イ. 創業プランコンテスト: 起業家の優れたビジネスプランに最大で 200 万円補助する ウ.人材

産業技術・経営研修会助成金:企業や産業団体の技能研修にかかる経費を助成 就業規則作成助成金:就業規則の作成をサポート 雇用調整助成金活用促進事業(助成金):雇用調整助成金・緊急雇用安定助成金の申請 に係る社会保険労務士の代行費用を助成

工.環境

環境基金助成金:環境に配慮した先進的な取り組みを支援 集合住宅・事業所等 LED 照明設置費補助金: LED 照明の設置経費の一部を補助 太陽エネルギー利用システム設置費補助金: 太陽光発電システム・太陽熱利用システム の設置経費の一部を補助

電気自動車等購入費補助金:電気自動車等の購入経費の一部を補助

足立区に聞く



産業経済部企業経営支援課長 鈴木 孝昌

新型コロナウイルス対策

足立区の独自支援として新型コロナウイルスの対策で始めた新たな取り組みや感染予防対策費用を補助する「小規模事業者経営改善補助金」の新型コロナウイルス感染症対応特別枠を令和2年度から令和4年3月1日まで延長して実施していました。令和3年度だけでも500件を超える申請をいただいています。また同じく独自支援の「緊急経営資金(新型コロナウイルス対策資金)」の融資も令和4年3月31日まで延長して実施しました(令和4年9月30日まで延長しています)。

普段、区の助成制度などを使わない事業者様もかなりいらっしゃったので、新型コロナウイルス感染症の影響が甚大だと捉えています。

令和3年度には区内の消費を喚起するためにプレミアム商品券の「あだち30(サンマル) 買い物券」事業を新たにおこない、多くの方にご利用いただきました。

中小企業経営者支援等

経営上のさまざまな課題を解決したい方などのために令和4年度新たに「事業者なんでも相談員」として中小企業診断士のような専門家を募集しました。足立区内のいろいろな事業所を訪問してさまざまなニーズに対して寄り添いながら支援をおこなっていきます。

そのほかにも、地域特性や地域資源を活かした産業育成を推進する施策を実施しております。

(令和4年2月取材)

第2章 江戸川区

1. 江戸川区の概要

(1) 江戸川区の歴史

昭和7年(1932)の市郡合併により、それまでの南葛飾郡は廃止され、小松川町、葛西村、篠崎村、松江村、瑞江村、小岩町、鹿本村の7町村が併合されて東京市江戸川区が誕生した。区名は、区を南北に流れる江戸川に由来する。ちなみに、江戸川の名前は「江戸へ通じる川」という意味で名付けられた。

世帯数		345,803
人	男性	347,272
П	女性	342,467
	総数	689,739
令和4年1月1日現在		

(2) 江戸川区の地理

江戸川区は東京都の最東端に位置し、南北に長い形をしている。西に旧中川・荒川、東に江戸川、中央に旧江戸川が通る水辺のエリアである。東西約8キロメートル、南北約13キロメートルで、面積は49.09平方キロメートルあり、23区中4番目の広さである。区内には多くの公園が存在し、7.80平方キロメートルを誇る公園総面積は23区で1位となっている(後述(4)ウを参照)。



(出典:江戸川区 HPより)

(3) 江戸川区の名所

江戸川区は「日本の渚百景」にも 選ばれた「葛西海浜公園」に接する 広大な「葛西臨海公園」がある。同 公園には、国内で2番目に大きな観 覧車や、日本有数の水族館である 「葛西臨海水族館」がある。「葛西 海浜公園」は、東京都で初めてのラ ムサール条約湿地に登録された。

また、江戸川区には、都内に住むインド人の約4割が住んでおり、特に西葛西は日本屈指インド人街「リトルインディア」と呼ばれ、約5,100人強が在住している。平成31年に全国で初めて選出されたインド出身区議会議員も西葛西在住である。

このほか、昔ながらの独特な雰囲

主な観光名所	主な年中行事など
葛西臨海公園内	野鳥観察、お魚観察、カヌー体
	験、海水浴等(随時)
小岩駅 周辺	小岩阿波おどり(7月第1週)
行船公園	金魚まつり(7月中旬)
船堀タワー	展望塔で眺める初日の出(元日)
江戸川河川敷	江戸川区花火大会(8月上旬)
篠崎公園	江戸川区民まつり(10月中旬)





葛西臨海公園の観覧車と水族館

気と多くの飲食の名店で人気を集める小岩エリアなど、江戸川区は、自然と多様な文化の魅

力にあふれている。その魅力を広く伝えるため、江戸川区は平成 22 年(2010)に 120 の景観ポイントを「えどがわ百景」として選定(平成 30 年 4 月より 133 の景観ポイント)。パンフレットや探訪マップの配布、カレンダーや切手などのグッズ販売、写真展等で積極的に PRするとともに、ロゴマーク使用制度により区内事業者のえどがわ百景を活用した事業を支援している。

(4) その他

ア. 江戸川区の交通

江戸川区には5つの鉄道路線(北から京成本線、JR 総武線、地下鉄新宿線、地下鉄東西線、JR 京葉線)が東西方向に走っている。南北を結ぶ交通手段はバスとなっており、南北に長い形のため、各鉄道路線間をバスで移動しなければならない地域が数多く存在する。

一方、道路事情に目を向けると、京葉道、首都高湾岸線、首都高中央環状線といった高速道路が3本走っており、千葉、湾岸地域、都心部などへのアクセスは良好である。一般道路では、区の中心部を環状7号線が縦断しているのをはじめ、千葉街道など片側2車線以上の大通りが多数あり、道幅も比較的広いため、車での移動が容易になっている。また、区内がほぼ坂道のない平坦な地形であるため、自転車での移動も活発であり、平成28年度末時点で35kmであった自転車通行帯(ブルーレーン)は、更に62km整備する計画により、令和8年度末に総計約100kmとなる予定である。



(出典:江戸川区 HP より)

イ. 金魚三大産地

江戸川区は弥富市(愛知県) 大和郡山市(奈良県)と並び、「金魚三大産地」と呼ばれ日本トップクラスの品質を誇る。船堀・一之江地区を中心に養魚場が多くあり、毎年4月に開催される「日本鑑賞魚フェア」や、毎年7月に行船公園で開催される「金魚まつり」は、多くの来場者でにぎわっている。

また、金魚をもっと身近に感じてもらうために生まれたキャラクター、江戸っ子金魚「えど金ちゃん」を通じて、区特産の



(出典:江戸川区 HP より)

金魚を全国に PR している。

ウ. 公園

東京都建設局の「東京都都市公園等区市町村別面積・人口割比率表 (令和3年)」によると、江戸川区の公園総面積は7,810,931 ㎡と東京都内(23 区および市町村含める)で1番広く、1人当たりの公園面積も皇居外苑のある千代田区を除くと23 区の中で最も高い区となっている。

2. 江戸川区の産業の特徴と状況

(1) 江戸川区の特徴と状況

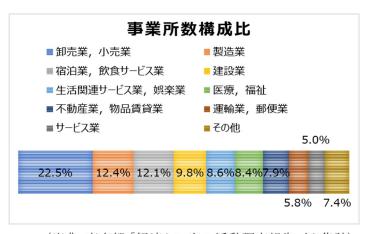
平成 28 年(2016)東京都統計年 鑑によれば、総事業所数は 23 区 中 11 位の 20,228 件で、従業員 数は 176,836 人となっており、23 区内で比較すると運輸業、建設 業、製造業の比率が高いという 特徴がある。事業所数は 2 万件台 を推移しながらも減少傾向であ り、従業員数は事業所数の動き と相関している。



(出典:東京都統計年鑑より集計)

従業員数 1~4 人の事業所が 58.5%と半数以上を占めており、 10 人未満は 78.1%と 8 割近くを 占めている、小規模な事業者が数 多く存在する地域である。住所兼 事業所が 43.4%と、住職一致・近 接型の事業所が数多く存在する (江戸川区事業所実態調査より)。

建設業の事業所数は1,992で、足立区、練馬区、大田区に次ぎ23



(出典:東京都「経済センサス-活動調査報告」より集計)

区中第4位である。運輸業の事業所数は1,178を数え、大田区、足立区に次いで23区3位で、東京都の陸送を支えている。

(2) 江戸川区の産業と課題

ア.江戸川区の工業の特徴

江戸川区内の工業の状況

江戸川区は、東京都城東地域に位置する工業集積地域である。製造業の内訳は金属製品、一般機械器具、衣服・その他の繊維製品が主な業種となっている。しかし、その大半が従業員4人以下の小規模工場であり、居住地と職場が近い「職住近接」の事業所が数多く存在する。

運輸分野では、高速道路を利用すると湾岸地域や空港にもアクセスが良いため、東京有数の物流ハブ拠点である「葛西トラックターミナル」がある。農業分野では、花き・野菜等の農業産出額 14 億 500 万円(令和元年)は 23 区で 1 位である。代表的な特産物として、江戸川区小松川の地名に由来する小松菜や、鹿骨地区の花き(ポインセチア、シクラメン、朝顔、菊、バラ等)がある。

江戸川区の工業の課題

河川沿岸や平井地区、船堀~新小岩間の区域が準工業地域に指定され、金属製品製造業、 生産用機械器具製造業、繊維工業、印刷・同関連業等が区内産業の基盤を担ってきた。しか し、国際化や高度情報化、高齢化や事業継承の問題、環境への配慮などで、他地域と同様に 製造業は減少傾向であり、鉄道駅近辺を中心とした利便性の高い土地は、工場からマンション・建売住宅などへの宅地化が進んでいる。

そうした状況下、江戸川区はものづくり産業の発展を支援するため、斡旋融資制度をはじめとするさまざまな助成制度を実施している。

イ.江戸川区の商業の特徴

江戸川区の商業の状況

平成 26 年(2014)の商業統計調査によると、江戸川区おける商業(卸売業・小売業)の事業所数は 3,634 店、従業員数は 29,268 人となっている。

江戸川区内における商業の分布をみると、小岩、葛西・西葛西エリアに事業所・従業員数ともに多く分布している。

小岩エリア (南小岩、北小岩、西小岩、東小岩)の商業事業所数は 716 で 19.7%、従業員数は 4,226 人で 14.4%が分布している。

葛西・西葛西エリア (西葛西、東葛西、中葛西、南葛西、北葛西、清新町)の商業事業所数は 709 で 19.5%、従業員数は 7,984 人で 27.3%が分布している。

江戸川区の商業の課題

江戸川区の商業事業所数は平成 19 年(2007) と比較して 26.9%、年間販売額は 24.1%と、減少している。江戸川区を通る鉄道は、新宿や秋葉原、錦糸町など、大型商業施設が多くある都市へのアクセスが良いため、買回り品を中心に買い物客が都心部へ流れやすい傾向がある。また、鉄道駅から徒歩圏外の地域では、その地域の生活を支えるスーパーや商店街が存在している。地域のためにも、それらの事業所の継続支援が求められている。



昭和通り商店街 (出典:江戸川画像文庫) ©江戸川区

ウ.区内の成功事例等

えどがわ伝統工芸産学公プロジェクト

「工芸者と美大生が江戸川からこれからの伝統をデザインする」をコンセプトに、江戸川区の伝統工芸者と美術大学(多摩美術大学、女子美術大学、東京造形大学)が連携し、新しい伝統工芸製品を創る事業。平成15年度(2003)に江戸風鈴、つりしのぶ等の伝統工芸者10名、学生約150名でスタート。これまで工芸者延べ187名、学生延べ2,116名が参加し、商品約920点を開発。平成20年(2008)にはグッドデザイン賞を受賞した。

えどがわ伝統工芸産学公プロジェクトで生み出された 商品は、江戸川区の名産品を販売するネットショップ『え どコレ!』(楽天市場)で販売している。

えどがわ伝統工芸士



(出典:江戸川区HPより)

https://www.city.edogawa.tokyo.jp/shigotosangyo/project/index.html

葛西海浜公園のラムサール条約登録

平成30年(2018)10月、葛西海浜公園が、国際的に重要な湿地を保全する「ラムサール条約湿地」に都内で初めて登録された。葛西海浜公園には、多くの渡り鳥が飛来するとともに、準絶滅危惧種のトビハゼを含む多種多様な生物が生息している。

貴重で自然豊かな環境の保全と活用に関心が多く向けられ、近隣施設への集客増や、区のイメージアップに繋がっている。



(出典:江戸川区HPより)

https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e086/kurashi/kankyo/johochosa/ramsar_conventio
n.html

3. 江戸川区の施策(補助金・条例)

江戸川区には、新製品・新技術開発、ものづくり環境整備、事業継続など、製造業に重点を置いた施策が少なくない。また、これから起業する人、起業して間もない人への支援にも力をいれており、平成26年(2014)3月には国から「創業支援等事業計画」として認定を受けている。

(1) 産業ときめきフェア in EDOGAWA

製造業を中心とした企業が一堂に会し、展示・実演などを通じて優れた製品・技術力を紹介する展示講演会。ビジネス情報の交流を促進し、企業の活性化を図ることを目的として開催されるものである。第 21 回目となる令和元年(2019)は 11 月に船堀タワーホールで開催されたが、第 22 回は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止、第 23 回は令和 3 年(2021)11 月 19 日(金曜日)から 12 月 18 日(土曜日)にオンラインでの開催となった。https://sangyoutokimeki.jp/

(2) えどがわ起業家ゼミナール

起業に必要な知識やスキル学習のためのセミナーを、基礎編、ステップアップ編と 2 段階で展開している。知識取得から事業プランの作成、発表会までをおこなう。

本講座の受講生で一定の条件を満たすと「産業競争力強化法に基づく特定創業支援等事業の認定による支援」を受けることが可能となり、登記にかかる登録免許税の軽減や、融資保証枠の拡大が活用できる。

https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e032/shigotosangyo/jigyosha_oen/sangyo_jigyo sya/sougyo_shien/kigyoka_seminar/index.html

(3) えどがわ起業ビジネスプランコンテスト

江戸川区内で新たに起業を考えている人を対象に、ビジネスプランコンテストを開催。書類審査とプレゼンテーション審査を行い、入賞者を決定する。入賞者が江戸川区内で実際に 起業した場合、起業にかかる経費の一部を区が助成する。

第 18 回となる令和 4 年は、2 月 21 日 (月曜日)に応募受付が締め切られ、3 月 19 日 (土曜日)に最終審査が行われた。

https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e032/shigotosangyo/jigyosha_oen/sangyo_jigyo sya/sougyo shien/contest/index.html

(4) 創業支援施設

新たに創業しようとする人や創業してまもない事業者の企業活動を支援し、区内産業の活性化を図るため、創業支援施設「チャレンジオフィス小岩」を提供している。

https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e032/shigotosangyo/jigyosha_oen/sangyo_jigyo sya/sougyo_shien/sogyosien/index.html

(5) えどがわ産業ナビ

区内の会社・店舗などの情報を紹介する、登録 および利用が無料のインターネットサイト。区内 事業者の事業内容や各種情報(空き店舗、貸し工場、求人情報) ニュース(製品情報、キャンペーン、ビジネスマッチング) セールスポイントなど を発信し、新規顧客や取引先の開拓に利用できる。また区内の補助金、助成金、セミナーといった産業支援情報の検索をするにも便利なサイトである。



https://edogawanavi.jp/

(6)主な助成金事業

新製品・新技術開発支援、公設試験研究機関等利用、ものづくり技術継承支援、人材確保定着推進、販路拡大支援、ISO 認証取得、エコアクション 21 認証取得、プライバシーマーク認定取得、知的財産権の出願、事業継続計画(BCP)の策定、デジタル技術活用促進、江戸川区ものづくり企業地域共生推進、創業促進などがある。(内容は令和3年度のもの、今年度変更の場合あり)

https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e032/shigotosangyo/jigyosha_oen/sangyo_jigyo sya/jyosei/index.html

4. 城東支部とのつながり

城東支部としての江戸川区との主な取り組みとしては、江戸川産業ときめきフェアへの 出展(11月~12月)、江戸川区地域クラウド交流会への参加(年2回)、江戸川区商店街プロデュース事業(平成31年度は3商店街を支援)などがある。







江戸川区に聞く

新型コロナウイルス対策

江戸川区は、区内の中小事業者の業況の回復がさらに遅れることを見込み、令和3年7月より融資限度額を1,000万円から2,000万円に増額しております。

また、令和2年3月から始まったウイルス緊急対策融資の返済が今年度から本格化することに備え、借換融資制度を新設し事業者に対し金利の一部を補助し返済負担軽減を図っていきます。



江戸川区 産業経済部 産業経済課 課長 関山 健二

中小企業への DX 推進

職住近接のまちである江戸川区は、区内事業者 15,000 社の 99%が中小企業であり、DX 推進による生産性向上が求められています。令和 4 年度は企業 15 社を対象に「DX 実践ゼミ」を実施します。ゼミでは各企業の担当者が自社の課題抽出と IT による課題解決・導入計画立案を実践形式で学んで頂きます。その他にも、「相談窓口の設置」「専門家による伴走支援」等、レベルやニーズに応じた総合的な支援を行っていきます。

事業承継支援

平成30年より「6010金士公連携プログラム」に取り組んでいます。忙しい経営者は企業の現状やビジネスモデル、財務、強み・弱み・外部環境を分析する時間の確保が難しいです。そこで区が派遣する専門家(中小企業診断士)が経営者へのヒアリングを通じて「企業カルテ」としてまとめます。示された課題と方針に対して、経営改善や後継者育成・技術承継に取り組んで頂きます。

産業実態の調査

令和 4 年度は区内事業者 5,000 社に対してアンケートを実施し、経営状況や課題・要望を把握します。アンケート結果を分析して、課題や要望に応じた産業経済施策を令和 5 年度以降に行っていきます。

(令和4年2月取材)

第3章 葛飾区

1. 葛飾区の概要

(1) 葛飾区の歴史

昭和7年(1932年)の市郡合併よってそれまでの南葛飾郡は廃 止され、金町、水元、本田、奥戸、南綾瀬、亀青、新宿の7カ町 村を併合し東京市葛飾区が誕生した。「かつしか」の「かつ」は丘 陵や崖など、「しか」は低地の意味をもっており、地域的な景観か ら名付けられたと考えられている。

世帯数		239,622
人	男性	230,439
П	女性	231,644
	総数	462,083
令和4年1月1日現在		

(2)葛飾区の地理

葛飾区は東京都の東北端に位置し、形は尾ひれを上に向けた金魚 に似ている。

西に荒川、東に江戸川、中央に中川が通る水辺のエリアである。 東西約5キロメートル、南北約8キロメートルで、面積は34.80平 方キロメートルあり、23区中7番目の広さである。



(3) 葛飾区の名所

日本映画史に残る名作「男はつらいよ」 の舞台として知られる下町情緒あふれる 柴又をはじめ、季節の花木が楽しめる公 園、庭園が点在する。「こち亀」の亀有、 「キャプテン翼」の四つ木など漫画・アニ メのゆかりの地としても有名。街のいた る所に銅像が設置され、銅像を探しなが らの観光も人気である。

主な観光名所	主な年中行事など
柴又帝釈天	納涼花火大会(10月)
	寅さんサミット(11月)
堀切菖蒲園	葛飾菖蒲まつり(6月)
都立水元公園	葛飾菖蒲まつり(6月)
亀有	香取神社例大祭(9月)
立石	立石フェスタ(9月)

"大人の遊園地"や"昼酒の聖地"等の異名をもち下町風情あふれる立石など、魅力あふ れる葛飾区である。



亀有駅前のこち亀キャラクター



キャプテン翼の名シーンを再現して撮影可能 柴又駅前の寅さんとさくら像



(4) 葛飾区の農業

葛飾区は、23 区の中で農業が存続している数少ない地区であり、農業者世帯数は 167 世帯、約 35 ヘクタールの農地を有している。「とれたて・イキイキ葛飾元気野菜」のブランドとして、主に小松菜・枝豆・ほうれん草・キャベツ・ねぎなどが栽培されている。JA 東京スマイル 葛飾元気野菜直売所(柴又)はじめ、区内の葛飾元気野菜「取扱店」「使用店」で購入が可能である。

2. 葛飾区の産業の特徴と状況

(1) 葛飾区の特徴と状況

総事業所数は、16,636 で 23 区中 17 位であるが、製造業の事業所数は 2,717 で、大田区、 墨田区、足立区に次ぎ 23 区中第 4 位 (東京都統計年鑑 平成 31 年・令和元年)である。ただし大工場は少なく、中小零細工場が多い特徴がある。全体の事業所数は減少傾向にあり、 製造業の事業所数も減少傾向にある。

また、葛飾区では葛飾区伝統工芸士、ならびに伝統工芸品を認定し、江戸切子に代表される葛飾区伝統工芸品として 46 品目を指定している。さらに伝統産業販路拡大支援事業による製品の販路拡大(葛飾区伝統産業館、ネット販売等)など、その振興に力を入れている。

(2) 葛飾区の産業と課題

ア. 葛飾区の製造業の特徴

葛飾区内製造業者を取り巻く環境

葛飾区は、東京都城東地域の一画に位置する東京都における代表的な工業集積地域である。玩具、工業用ゴム、シャープペン・ボールペン、ボルト・ナット、装身具などは、全国的においても葛飾区が主要な生産地となっている。しかし、その大半が従業員6人以下、6割が従業員3人以下の小規模工場であり、1工場当たりの出荷額も23区中下位に位置している。

葛飾区の工場の大きな特徴は、経営者の約7割、従業員の約半数が区内に居住している「職住近接型」という点が挙げられる。

課題

工業統計(従業者4人以上の製造業の事業所を対象にした統計)によれば、事業所数、従業員数、製造品出荷額は年々減少しており、これは都市部製造業の減少理由と同様に、東アジアへの海外シフト、マンション等住居建設に伴う騒音その他操業環境悪化、後継者難による廃業などが挙げられる。

工業統計表	事業所数 ()従 業者 4 人 以上	事業所数 推移(%) 平成 19 年 100	従業員数 (人)	従業員数 推移(%) 平成 19 年 100	製造品出荷額 (億円)	製造品出荷 額 推移(%) 平成 19 年 100
平成 19 年	1,186	100	13,860	100	2,315	100
平成 24 年	908	76.5	10,668	77.0	1,811	78.2
平成 29 年	692	58.3	9,055	65.3	1,685	72.8

出典: 各年工業統計表より筆者編集

イ. 葛飾区の商業の特徴

葛飾区内商業者を取り巻く環境

葛飾区おける商業(卸売業・小売業)の事業所数は3,785、従業員数は28,606人で全産業における割合は、事業所数22.7%、従業員数22.2%と全産業中最も大きな割合を占めている。従業員数の規模で見た事業所数では、4人までが2,324事業所で全体の61.4%、次いで9人までが735事業所と事業所全体の19.4%と、1~9人までの規模の事業所数が全体の8割を超える。小規模事業所の割合が高い。(第65回葛飾区統計書)

葛飾区内における商業事業所分布

葛飾区内における商業の分布を地区別にみると、亀有、立石、青戸の順に多い。3 エリア合計で、事業所数の約 25%を占める。小売業では、亀有地区が約 13%の事業所が集積している(第 65 回葛飾区統計書)。特に平成 18 年 3 月にオープンした都内有数規模のアリオ亀有(区内亀有 3 丁目)内には約 130 の専門店がある。

課題

平成 26 年の商業の年間商品販売額は 6,051.2 億円 (経済産業省商業統計)。 平成 9 年の 8,768.2 億円に比べると 69.0%の水準まで減少し、また 7 年前の平成 19 年の 7,403.3 億円 に比べると 18.2%、1,352.1 億円減少し、事業者数も同様に減少している。近年の減少傾 向に歯止めがかかっていない。アリオ亀有に代表される大規模商業施設の開業などを考慮 すると、小規模店舗はその減少幅が大きなものとなっていると推察される。

3.区内の成功事例等

(1) 葛飾区地域ブランド認定

区内の製造業者が高い技術を駆使して製造した製品・部品等を、地域ブランド「葛飾町工場物語」として平成19年から認定・PRしている。

https://katsushika-brand.jp/



(2) 柴又地区の重要文化的景観認定

平成30年2月に国の重要文化的景観として、柴又地区が認定された。増加する外国人をはじめ、観光客へ下町柴又の魅力をアップするニュースとして、注目されている。「寅さんサミット」はじめ、多くの柴又地区ならではのイベントを開催し、近隣商店への集客増へ繋げている。



https://torasan-summit.jp

4. 葛飾区の施策(補助金・条例)

(1) 葛飾区基本計画(令和3年~令和12年)

葛飾区では令和7年以降、人口減少が継続することが見込まれている。区では「葛飾区基本計画」を策定し、「夢と誇りあるふるさと葛飾の実現」「区民との協働による、いつまでも幸せに暮らせるまちづくり」を基本方針として、14の葛飾・夢と誇りのプロジェクト、SDGsが目指す経済・社会・環境の全ての面における発展に向け、成長と成熟が調和した持続可能なまちづくりを進めている。

https://www.city.katsushika.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/026
/967/honpenzentai.pdf

(2)産業活性化プラン

ア. 葛飾区地域産業活性化プラン(平成 17 年)

http://www.city.katsushika.lg.jp/information/1000085/1006292/1006339.html 区がこの方向性に沿って、毎年度産業振興策を推進している。

イ.かつしか観光振興プラン(平成 19年)

http://www.city.katsushika.lg.jp/information/1000084/1006024/1006277.html

観光振興における区が目指すべき姿、実現するための施策方向性およびプロジェクトである。

ウ.主要なイベント、認定事業等

葛飾区産業フェア10月・町工場見本市2月・葛飾町工場物語(応募4~6月、認定10月) 区内製造業が高い技術を駆使し製造した製品や部品等を、葛飾ブランド「葛飾町工場(ま ちこうば)物語」として認定し、ストーリー性豊かに全国へ発信している。

また令和6年には、亀有駅近くに「こち亀」をテーマにした観光施設のオープンも計画されている。

エ.主な補助金事業

葛飾区内の中小企業向けの補助金制度として、製品性能試験費用補助事業、ホームページ 作成費補助、見本市出展費補助事業、知的所有権取得費補助事業、新製品・新技術開発補助 事業、動力プレス機械自主検査補助金、産業人材育成支援補助事業がある。製造業を重点に した施策が多い。

https://www.city.katsushika.lg.jp/business/1000071/1004944/index.html

オ.大学キャンパス誘致による活性化

平成 25 年、葛飾区金町に東京理科大学の葛飾キャンパスが設置され、またキャンパス内には研究戦略・産学連携センターも設置された。大学を誘致することで、教育研究や文化、スポーツなどが盛んになり、街が活性化することが期待されている。

5. 城東支部とのつながり

城東支部としての、葛飾区との主な取り組みとしては、葛飾区産業フェアへの出展(毎年10月)、葛飾区地域クラウド交流会への参加協力(年2回)、東京商工会議所とコラボした 柴又神明会商店街役員向けのインバウンドセミナー、葛飾区立図書館ビジネスセミナー、中 央図書館・立石図書館ビジネス相談会、葛飾区創業塾の開催等がある。

注:令和3年度は新型コロナウイルスの影響により中止になったものを含む









6. かつしか電子まっぷ

令和3年9月にリニューアルされた「かつしか電子まっぷ」は、葛飾区の施設、防災、都市計画等の各種地図情報を整理・統合したサービスである。葛飾区の情報について、目的を 絞り地図上に落とし込んで検索・閲覧可能である。

https://www.sonicweb-asp.jp/katsushika

葛飾区に聞く



葛飾区産業経済課長 倉地 儀雄

新型コロナウイルス対策

中小企業の多い葛飾区では、特に小規模の事業者が新型コロナウイルス感染症の影響を受けてきました。事業者を支援するために区では一昨年3月から「新型コロナウイルス対策緊急融資」を行っています。残念ながら現在も新型コロナウイルスの影響が長期化し出口が見えない状況です。引き続き事業者を支援するため、すでに借り入れの返済が近づいている事業者には借り換えの案内をしています。新規に借り入れされる事業者には据え置き期間の延長、利子補給、限度額を上限1500万円まで引き上げ等で対応しています。また、今年度も前年度に引き続き中小企業者向けに、区独自の各種補助金を継続して準備していますので、事業者には活用していただきたいと思います。

「事業承継」と「創業支援」

区の大きな課題の一つとして、事業承継が進んでいない点があげられます。区の中小企業の事業主は、大半の方が60歳を超えていますが、円滑に事業承継を進めるには5年ないし10年の時間がかかります。経営者の方には、可能であれば50代半ばから事業承継を考慮した経営を検討してもらい、区の産業を未来に残して欲しいと思います。

一方、区で定期的に行っている創業塾は毎回満員御礼で、30人の定員が即日埋まります。創業塾に参加する事により、融資の面で有利になったり、創業関連の助成金や補助金にも申請できる等のメリットもあります。起業を考えている方々が多いのは、区の活性化にも繋がる良い傾向です。

現在コロナ禍で皆が苦しい状態ですが、今後も職員一同区内を走り回り、区の産業を 盛り立てて行きたいと思っております。

(令和4年2月取材)

第4章 江東区

1. 江東区の概要

(1) 江東区の歴史

江東区は江戸初期から埋立てを行い、木材・倉庫業、米・油問屋 の町として栄えた深川地区(旧・東京市深川区)と、江戸近郊の 農地として野菜を江戸市民に供給してきた城東地区(旧・東京市城東区)から成り立っている。明治時代になると、広い土地と水運を利用して、東京の工業地帯となった。「江東」の区名は、昭和22年に「隅田川の東に位置する」という地理的な意味から、辰巳区、東区、永代区などの候補の中から選ばれた。

世帯数		276,477
人	男性	258,679
П	女性	267,273
	総数	525,952
令和4年1月1日現在		

(2) 江東区の地理

東京都の東部、隅田川と荒川に挟まれた位置にあり、東京湾に面している。元々低地であったが、かつて南関東ガス田の開発に伴う地下水の汲み上げにより地盤沈下したことで、区の大部分がゼロメートル地帯、または海面より低い海抜マイナス地帯となっている。面積は 43.01 平方キロメートル(江東区ホームページより)あり、23 区中6番目の広さである。



(3) 江東区の名所

主な観光名所	主な年中行事
次川太和英	初不動(1月28日)
深川不動尊	深川龍神例大祭(5月1日)等
富岡八幡宮	例祭(8月15日頃)
亀戸天神社	藤まつり(4月)、例大祭(8月)
猿江恩賜公園	チューリップフェスタ(4月)
東京ビッグサイト (東京国際展示場)	企業向けの展示会、各種文化展示 (随時)
日本科学未来館	トークセッション、ワークショップなど(随時)
ダイバーシティ東京	販促イベントや他企業とのコラボイベント(随時)
豊洲市場	予約制見学等(随時)

場である東京ビッグサイトも有している。

また、東京 2020 オリンピック、パラリンピック会場では、江東区の湾岸エリアの 10 施設が利用された。

2. 江東区の産業の特徴と状況

(1) 江東区の特徴と状況

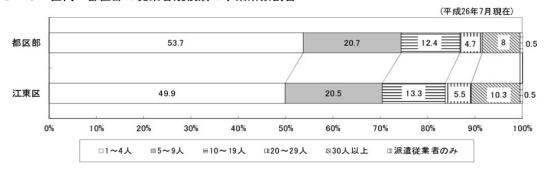
江東区は繊維(ニット)やガラス(江戸切子を含む) 木材や印刷といった産業が集積 しているが、最近では情報関連業の集積が目立っている。また、臨海副都心地区の開発が 進んでいることもあり、新しい文化・情報の発信、京浜・京葉の両臨海地帯を結ぶ陸路の 物流拠点、国際港としての海運物流の拠点になっている。

事業所数は昭和56年と比較して、約20%減少している一方で、従業者数は175%増と大きく増加している。従業員4人以下の小規模事業所が減少している一方で、従業員20人以上の大きな事業所の割合が増えており、従業員が増加したことが要因と思われる。

3-1 事業所数 (総数)・従業者数の推移



3-5 区内・都区部の従業者規模別の事業所数割合



(出典)江東区データブック 2021

(2) 江東区の産業と課題

ア.江東区の工業の特徴

特徴

江東区の工業は明治時代以降、広大な土地と水運が充実していたことを背景に、繊維、木材、ガラス、印刷、製本、金属加工といった産業が発達し、東京の工業地域の一角を担っている。さらに江東区は、京浜・京葉の両臨海地帯を結ぶ陸路の物流拠点として、青海コンテナふ頭やフェリーふ頭(有明)、若洲建材ふ頭などの東京港は、国際港としての海運物流の拠点としての位置付けも高い。

課題

都内の他の代表的な工場集積地区と同様、事業所数は減少傾向にある。特に従業員 5 人以下の小規模の減少が顕著である。これにより、かつて強く持っていた集積ネットワーク機能を喪失してしまう恐れが強い。また、江東区の主要工業である、繊維や木材といった産業は、価格の安い海外製品との競争が激しく、消費者のニーズに合った付加価値の提供を図ることが急務となっている。

イ.江東区の商業の特徴

特徴

人口の顕著な増加等により、商業の環境としては好条件である。大型商業施設の新規 参入やコンビニの店舗数が増加しているが、大型商業施設は臨海部や中南部に集中し、 偏りが生じている。また江東区の商業の突出的な特徴として、サービス業の代表格であ る情報関連業の伸びが著しい。平成 11 年は 154 事業所だったのが、平成 21 年には 451 事業所と 10 年で約 3 倍に増加、平成 26 年でも 442 事業所の水準を維持している(経 済センサス平成 28 年版より)

課題

商業の代表格である商店街は他の地域と同様、店の後継者問題や商店会組織の高齢化、 来街者の減少などが問題としてあげられる。江東区が平成25年に実施した「江東区産 業実態調査(平成25年実施)」によると、実質的な活動メンバーは60歳以上が6割を 超えており、組織活動が活発な商店会は12.8%に留まっている。

この状況では、近年の消費動向の変化の速さに対応が困難であり、更なる衰退が懸念される。

3. 区内の成功事例等

(1) ものづくり団地(江東ブランド)の認定

優れた技術でものづくりを行い、それを守りながら継承し、発展を続けている企業を「江東ブランド」として認定している。認定企業への支援として、 展示会や見本市など、製品や技術を PR できる場の提供 認定企業紹介パンフレットの発行・配布 認定企業情報を発信するための専用ウェブサイトへの掲載 認定企業を軸とした交流会の開催 江東ブランド認定ロゴマークの付与を行っている。

https://kotobrand.jp/

(2) 江東みつばちプロジェクト®(豊洲商友会協同組合)

「豊洲ブランド」を作ろうと、豊洲の明るいイメージや地産地消に合うものとして養蜂事業を開始。ビルの屋上で採れた蜂蜜の販売に加え、商店街の各店舗で製品開発を行い、豊洲

名物を制作し販売した。同時に蜂の蜜を集めるための「花いっぱい運動」「清掃活動」を実施し、地域の美化も行った。また、いくつかの大学の花粉採取調査にも協力している。

商店街として新たに名産品を作ろうという気概あふれた取組であり、各店舗で蜂蜜を活用した商品開発を行うことで、商店街に一体感が生まれている点が評価され、第 13 回東京商店街グランプリ優秀賞を受賞した。

http://koto-mitsubachi.org/

4. 江東区の施策(条例・補助金)

(1) 江東区の基本構想(平成21年3月策定)

江東区基本構想は概ね今後 20 年を展望した江東区の姿を「みんなでつくる伝統、未来水彩都市・江東」として将来像に定めたほか、その実現を図るための施策の大綱(水と緑豊かな地球環境にやさしいまち、未来を担うこどもを育むまち、区民の力で築く元気に輝くまち、ともに支えあい、健康に生き生きと暮らせるまち、住みよさを実感できる世界に誇れるまち)という5つの大項目で構成されている。

https://www.city.koto.lg.jp/010162/kuse/shisaku/koso/5472.html

(2)新しい江東区長期計画(令和2年度~11年度)

本長期計画では「地下鉄 8 号線の延伸」を重要課題とし、重点的な取り組みとして、「水彩・環境都市づくり」「未来を創るこどもを育むまちづくり」「地域の活力を生み出すまちづくり」「高齢者など誰もが支えあう社会づくり」「防災都市江東戦略」「オリンピック・パラリンピックレガシーの継承」「臨海部のまちづくり」の7つの重点プロジェクトを掲げ、施策を横断的に連携させながら着実に取り組む。

https://www.city.koto.lg.jp/010162/kuse/shisaku/kekaku/kekakur0211/choukikeikaku0211.html

(3) 江東区の中小企業支援

江東区の中小企業支援は以下の通りである。

ア.相談対応

巡回相談、税務相談、労務相談、経営相談、産学公連携相談窓口(東京商工会議所) 新型コロナウイルスに関する中小企業者等の相談窓口について、経営相談、創業支援相 談

https://www.city.koto.lg.jp/sangyoshigoto/chusho/index.html

イ. 各種補助金

ICT 等導入支援事業、產学連携小規模共同研究補助金、知的財產権取得費補助、新製品· 新技術広告宣伝費補助、中小企業団体活動助成、環境認証等取得費補助、展示会等出展 費補助、研究開発補助金(旧:新製品・新技術開発補助金) ホームページ作成費補助、 都立産業技術研究センター利用料の一部補助、創業支援事務所等賃料補助金

ウ. 創業支援

「江東区創業支援等事業計画」、認定特定創業支援等事業を受けて開業した企業を紹介

エ.後継者・人材育成

インターンシップ事業、産業スクーリング事業

オ.産業情報の提供

中小企業景況調査、中小企業支援施策ガイド、江東区中小企業情報誌「こうとうの産業」

カ.講座・セミナー・イベント

無料オンラインセミナー・売上アップのための連続講座、創業支援セミナー無料オンラインセミナー、産業展、江東区地域クラウド交流会

キ.その他中小企業支援事業

事業復活支援金について(経済産業省) 小規模事業者持続化補助金(日本商工会議所の支援策) 先端設備等導入計画の認定申請、消費税の円滑かつ適正な転嫁、中小企業団体登録、産業会館・商工情報センター利用に伴う中小企業者登録、公衆浴場対策事業

5. 城東支部とのつながり

城東支部としての、江東区との主な取り組みとしては、以下を目的に「江東区中小企業診断士会」が活動している。http://smec-koto.tokyo/

- ○江東区内の行政、金融機関、商工団体、商工事業者に対する相談対応の提供
- ○会員による経営支援サービス

などにより、中小企業の販路拡大の支援を実施している。

江東区に聞く



江東区地域振興部経済課長 小林 正人

新型コロナウイルス感染症対策融資

令和2年3月から実施しておりますが、コロナウイルス感染症の長期化により、事業者の皆様の業績が回復する前に返済期日が到来するなどの負担増が想定されました。そこで、令和3年度から借入限度額の増額や借換えを可能とするなどの拡充を図りました。現在まで、中小企業診断士の皆様のご協力をいただきながら、約5,000件の融資あっせんを行ってきたところです。

第 6 波の急速な拡大もあり、先行きは依然不透明な状況であると認識しております。 当融資につきましては、感染症の状況や政府の動向にもよりますが、令和 4 年度におい ても、継続して実施する予定です。

中小事業者向け ICT 等ツール導入支援

令和3年度から、区内事業者のICT化促進のため、ICTツールの導入を検討している事業者に対し、中小企業診断士の皆様のご協力のもと、事業者に合った導入の提案のため専門家を派遣し、導入費用の一部を補助する事業を開始しました。専門的な知識が乏しい事業者をフォローできるとともに、事業者の費用負担の軽減につながることから、想定を上回る利用がありました。

令和4年度においては、令和3年度のニーズを踏まえ、補助件数を大幅に増やすなど、 事業規模を拡充して実施してまいります。

(令和4年2月取材)

第5章 墨田区

1.墨田区の概要

(1)墨田区の歴史

墨田区は近代産業の発祥の地であり、区内産業に従事する区民の割合が多く、区内産業と区民生活は密接に関わる「産業のまち」であった。昭和22年(1947年)3月15日に北部の向島区と南部の本所区が一つとなって墨田区が誕生した。墨田の名は、隅田川堤の通称「墨堤」の墨と、隅田川の田から名付けられた。

世帯数		157,015
人	男性	136,233
П	女性	139,491
	総数	275,724
令和4年1月1日現在		

(2)墨田区の地理

墨田区は東京都の東部、江東デルタ地帯の一部で、隅田川、旧綾瀬川、荒川、旧中川などを区界とする水辺と緑に囲まれた町である。区の形は南北にやや長く、東西約5キロメートル、南北約6キロメートルで、面積は13.77平方キロメートルあり、23区中17番目の広さとなっている。



墨田区は、東京23区中17番目の広さ

(3)墨田区の名所

歴史や自然を含めて東京を象徴する観光資源に恵まれており、ものづくりのまちにちなんだイベントも開催されている。また、隣接する浅草からスカイツリー方面への移動による外国人観光客の訪問も多い。

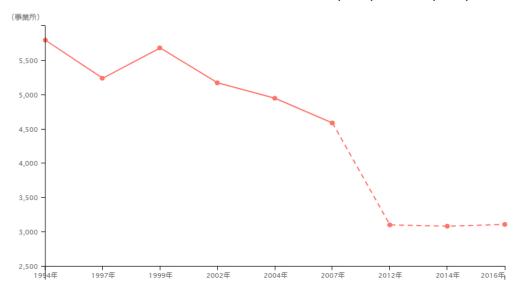
主な年中行事
隅田川花火大会(7月)
すみだストリートジャズフェステ
ィバル(8月)
「隅田川 森羅万象 墨に夢(令和3
年9月~12月)ほか各種企画展示
江戸東京博物館は令和4年4月1日
~令和7年度中休館予定
牛嶋神社祭礼(9月)
すみだまつり・こどもまつり(10月)
スミファ (11月)

2 . 墨田区の産業の特徴と 状況

墨田区の産業は、製造業の占める割合が高く、東京 23 区の中でも屈指の「ものづくりのまち」といえる。様々な業種の中小企業が集積し、日常生活関連用品や技術の供給地となっている。さらに近年は、平成 24 年の東京スカイツリー開業など、大規模開発や交通網の発展により状況が大きく変化している。しかしながら、後継者問題などから、中小企業を取り巻く状況は厳しく、小売業商店数や工場が減少傾向にある。

(1)墨田区の商業の状況

墨田区は、近年の交通環境の発展や東京スカイツリー開業等による大型店の進出が加速 しており、小売業商店は厳しい競争にさらされている。このような環境下、商店街や個店は 後継者難、空き店舗、顧客減少、施設の老朽化など数多くの課題を抱えており、小売業商店 数は減少してきた。



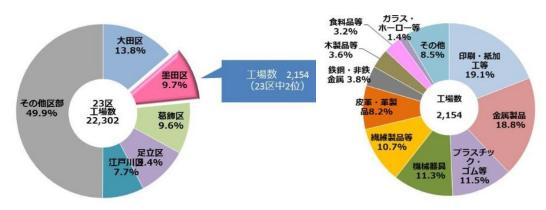
墨田区 小売・卸業 事業所数の推移(平成6(1994)-平成28(2016)年)

出典:内閣府 RESAS (地域経済分析システム)より抽出

グラフ上の破線は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「商業統計調査」と「経済センサス -活動調査」の集計対象範囲の違い等から、単純に調査年間の比較が行えないことを示している。

(2)墨田区の工業の状況

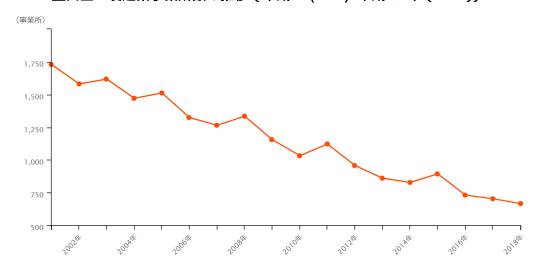
墨田区の工業は、日用消費財を供給する一大生産拠点として、ニット、皮革等の雑貨を中心に、関連の機械金属工業(日用消費財の金属部分を担うプレス、メッキ等)等が集まって、全国有数の都市型工業集積を形成した。



23 区の工場数

出典:墨田区ホームページ(データは「平成 28 年経済センサス活動調査」より)

墨田区における工場数の業種別構成比 出典: 墨田区ホームページ(データは「平 成28年経済センサス活動調査」より) 中国や東南アジア等への製造業の海外シフトの進展、工場周辺(工場跡地等)でのマンション建設の増加等による操業環境の悪化、後継者難等の問題から、工場数は減少傾向にある。



墨田区 製造業事業所数の推移(平成 13(2001)-平成 30年(2018))

出典:内閣府 RESAS (地域経済分析システム)より抽出

製造業事業所数は、従業者4人以上の事業所を対象とする工業統計調査を基にしている。

(3)墨田区の産業が抱える課題と成功事例

経営者の高齢化と経営状況の悪化に伴う事業承継の遅れが課題である。それに伴い、住民からも「産業のまち」の意識が薄れている。一方、平成24年のスカイツリーの開業を機に国内外から多くの観光客が訪れるようになり、平成25年3月に策定された「墨田区産業振興マスタープラン」では産業と観光の融合などを打ち出してまちづくりを進めている。

すみだ地域ブランド戦略

東京スカイツリーの誘致を契機に、「ものづくりのまちすみだ」を区内外に PR するために平成 21 年度に開始した事業。 すみだらしい付加価値の高い商品や飲食店メニューを「すみだモダン」と認証する「すみだモダンブランド認証事業」や、区内製造事業者とクリエイターとのコラボレーションによる市場価値の高い新商品開発を行う「ものづくりコラボレーション事業」を推進している。さらに、「スミファ」等のものづくりイベントの支援、海外展示会への出展などによる販路開拓支援、積極的な地域ブランド戦略の PR などを行っている。



すみだブランド認証商品の マーク

平成 28 年には「産業観光まちづくり大賞」で経済産業大臣賞、平成 29 年には「ふるさと

づくり大賞」で総務大臣賞を受賞するなど、高い評価を受けている。

産業観光プラザ すみだ まち処

東京ソラマチ内にある産業観光プラザ。すみだの見る、遊ぶ、食べる、買うなど、すみだ 観光に役立つ情報を発信している。

硝子や革製品、メリヤス、食器などのすみだモダン認証商品を中心に、すみだが誇る特産品や伝統工芸品をそろえている。また、伝統工芸の実演コーナーにより伝統の技を間近で見られるなど、「ものづくりのまちすみだ」を PR している。

スミファ~すみだファクトリーめぐり

スミファは、だれでも墨田区の町工場を巡って、職人と話し技術に触れ、ものが作られていく"現場"を肌で感じることのできるイベントである。令和3年度はすみだの誇る工場31社が参加し、オンラインで開催された。

活力のある中小企業の事例

株式会社浜野製作所:ものづくりのインキュベーション施設「Garage Sumida」を運営株式会社アストロスケールホールディングス:宇宙ゴミの除去など宇宙システムを開発

- 3. 墨田区の施策(補助金・条例)
- (1)墨田区工業振興マスタープラン(平成21年)

BtoB ビジネスで培った「ものづくりのノウハウ」をさらに強化し、"フロンティア企業・人材"(新たな産業分野を積極的に切り拓く企業・人材)などを核としたネットワークを有効に活用しながら、「BtoB の高度化」や「BtoC への展開」といった"フロンティア"的な事業展開の経験を、区内企業に広めていくために作成した。

https://www.city.sumida.lg.jp/kuseijoho/sumida_kihon/ku_kakusyukeikaku/kougyou sinkou.html

(2)地域力を育む商業空間づくり振興プラン(平成29年)

平成 29 年にスタートした 5 か年計画の「地域力を育む商業空間づくり振興プラン」では、 地域生活インフラとしての役割を果たす個店を増やすことを目指している。魅力的な個店 が核となって地域商業が活性化され、地域力が強化されていくために、商店街だけでなく既 存・新規の個店を対象にした継続的な支援を行うこととして、次の基本方針を掲げている。

- ・意欲ある商業者の、地域ニーズ把握や環境への対応を支援する。
- ・地域ニーズを意識した個店経営を後押しして、魅力的な個店を増やす。
- ・区内各地域に密着して顔の見える継続的な支援を行う。

https://www.city.sumida.lg.jp/sangyo_jigyosya/sangyo/keikaku_sakutei/syougyoup uran.html

(3)墨田区産業振興マスタープラン(平成25年)

東京スカイツリーの開業は、区内産業の活性化につなげる千載一遇のチャンスであると考え、東京スカイツリー開業 10 年後を見据え、「ものづくりのまち」、「産業のまち」としての区内産業の将来像を描き、その実現に向けた産業振興施策を展開していくために作成された。社会経済状況の変化に対応するため改定し、令和 4 年 3 月に「(仮称)墨田区産業観光マスタープラン」として策定予定。

https://www.city.sumida.lg.jp/kuseijoho/sumida_kihon/ku_kakusyukeikaku/sangyou
_masterplan.html

(4)(仮称)墨田区産業観光マスタープラン(令和4年3月策定予定)

「墨田区観光振興プラン」が2004年に策定され、「国際観光都市すみだ」の実現を目指し、取り組むテーマとして「北斎・江戸文化」「産業と観光の融合」「水都すみだ」を重点的・戦略的に展開することとされた。「墨田区観光振興プラン」はその後改定を重ね、令和2年度に計画期間が終了するため、改定予定の「墨田区産業振興マスタープラン」と統合して、新しく「(仮称)墨田区産業観光マスタープラン」の策定準備が進んでいる。

https://www.city.sumida.lg.jp/kuseijoho/sumida_kihon/ku_kakusyukeikaku/kannkou
sinnkoupurann.html

4. 城東支部とのつながり

城東支部としての墨田区地域との主な取り組みは、墨田区長との年 2 回の定例会議の開催の他、ひがしんビジネスフェアへの出展(11月)東向島駅前商店街振興組合への夏祭り・冬祭りの年2回の支援や活性化支援、向島橘銀座商店街(キラキラ橘商店街)への支援、たもんじ交流農園や寺島・玉ノ井地域のブランディングの支援を通じた特定非営利活動法人寺島・玉ノ井まちづくり協議会との連携支援等を行っている。

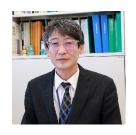
また、平成31年には、墨田区立八広図書館にて図書館ビジネスセミナーも開催された。注:令和3年度には新型コロナウイルスの影響により中止になったものを含む。







墨田区に聞く



墨田区 産業観光部 経営支援課 課長 塩澤 満

新型コロナウイルス対策

令和3年8月に融資枠を2,000万円に増加しました。既に融資を受けている方も増額する形で借りた場合には、過去の融資と一本化することにより、元本返済の据え置きの期間をトータルで2年に延長できる形で制度を作り直しました。

事業承継対策について

事業承継融資、すみだサポートセンターでの対応に加えて、新たに「M&A資金」を創設しました。融資額は2,000万円、返済期間7年以内、利子と保証料を全部補助する制度です。金融機関とすみだサポートセンターが間に入り、事業承継計画を確認したうえで補助を行い、買収される側も事前の設備投資など、環境を整えるのにも使えます。

創業支援について

後継者、若手経営者塾であるフロンティアすみだ塾は、令和2年、令和3年はコロナのため、やむなく中止しましたが、平成16年からトータルで約200人の修了生がいます。また、サブス区というスタートアップ情報Webサイトがあり、墨田区で創業を考えている方、創業したばかりの方を対象に区が窓口となり、区内の事業者様とつなげたり、経営支援などを行なっています。

拠点構想について

墨田区は SDGs のモデル都市となり、「ハードウェアスタートアップ拠点構想」という SDGs のモデル事業を進めています。区内の特徴的な五つのエリアにターゲットを絞り、区内の企業とスタートアップ企業が連携し、区内のエリアを産業の先端技術を生み出す産業の集積化を図り、地域の課題を解決するという構想です。墨田区の良いところは、「技術力の高さと様々な産業がある」ということです。金属やプラスチックなどのさまざまな事業者様があることで、ものづくりのときに連携しやすく、試作品や製品などが制作しやすい環境が整っているという特色を生かし、産業の集積化を図りたいと考えています。

アピールポイント

墨田区役所の良いところは、職員と区内事業者様との距離が近いことです。また、庁舎 1階に「すみだビジネスサポートセンター」を設置していることです。センターは、もの づくりとビジネスの総合相談窓口となっています。専門家が経営計画の見直しや補助金申 請へのアドバイスなどを受付けています。

(令和4年2月取材)

城東地区5区の産業構造等の概要について

<編集後記>

本小冊子は、東京都中小企業診断士協会 城東支部への理解を深めることを 目的に、管轄する5区の地域の情報を我々中小企業診断士の視点からまとめた 小冊子となります。

活動拠点でありながら知らなかった地域のことや、問題に至る背景、解決すべき課題などについて改めてご認識いただけるものと思います。

新入会員はもとより、今後城東支部で活動する会員の皆さまのお役に立ち、 この冊子が地域貢献の一助になれば幸いです。

2022年3月31日 第4版発行

執筆者:

足立区 佐野 雅啓 相川 佳寛 渡部 大志 嶋内 英朗 **重谷 亮**(第4版) 江戸川区 河野 悟 原 慎之介 佐竹 聡 沼部 昭彦 **上田幸正**(第4版) 葛飾区 屋代 勝幸 大口 憲一 森永 逸二郎 渡辺 英史 **清田健一**(第4版) 江東区 大口 憲一 高久 裕司 佐々木 靜 米納 嘉継 **村田祐己**(第4版) 墨田区 高仲 秀寿 池田 智史 海野 大樹 宮田 昌尚 **根津信之**(第4版) (順不同)

編集者: 相川 佳寛 屋代 勝幸 佐竹 聡 渡辺 英史 根津信之

発行元:東京都中小企業診断士協会 城東支部 地域支援部

城東支部ホームページ: https://joto-smeca.com/